

306) 夢あかり

あのほほえみに逢いたくて 記憶の中を彷徨^{さまよ}った
よみがえるのはうすあかり 涙にくれる君ばかり
あのほほえみに逢いたくて ふるさとの道歩いても
ぼくの心はいつの間に 冬の寒さにこごえてた

あの黒髪に逢いたくて 記憶の中を彷徨った
よみがえるのは夕立の 雨に濡れてる君ばかり
あの黒髪に逢いたくて 夏の思い出たどっても
ぼくの心に残るのは すぎた季節の風ばかり

あのまなざしに逢いたくて 記憶の中を彷徨った
よみがえるのは透きとおる あの美しい声ばかり
あのまなざしに逢いたくて 古いアルバムひらいても
ぼくの心のかたすみに 潮騒の音ひびくだけ

あの面影に逢いたくて 記憶の中を彷徨った
よみがえるのは湯あがりの うす紅色の頬ばかり
あの面影に逢いたくて 古い手紙をさがしても
ぼくの心ははるかなる 夜のしじまに揺れていた

初恋の日は遠ざかる 記憶の中の夢あかり
歳^{とき}月の流れお過ぎし日を 心模様に変えてゆく